

幼研創設50周年にあたって

広島大学名誉教授 祐宗 省三

(1) 附属幼年教育研究施設創設の経緯

私はアメリカ留学（米国オハイオ州立大学院博士課程大学院助手として）の勉強後、昭和33年帰国しました。私の学問の道を導いてくださったのは、Kurt Lewin 研究の第一人者であった故上代晃広島大学教授（文学博士）でした。私はフルブライト大学院留学生として米国オハイオ州立大学院博士課程で、当時第一人者で動機付け権威者 Wickens 博士のもとで研究をしました。

帰国後、私（祐宗省三）は広島 ABCC に研究生として来ておられた米国のニール博士たちと近親婚に関する研究を日本側として従事し、その後7年間、当時の広島女子短期大学（今の県立広島女子大学）に就職しました。当時は、幼児教育の実践的研究が求められていました。そして、広島大学教育学部の三好先生から、元の広大に帰ってくるようにとのことで「ハイ」と言って即座に広大に帰ってきました。

最初の「幼研」は、本部の校舎で創設されました。初代施設長は、柴谷久雄先生でした。先生は、広島文理科大学教育学科教育学専攻の出身、戦後、シベリヤに抑留され、帰国後は大阪市教育研究所長をされました。当時、みんなが持っていた万年筆を持たず、すべてボールペンを使用しておられました。先生のモットーは「半玄人はダメ」でした。また何ごとにつけ即断される人でした。助手は、丸尾さんでした。「幼研」は本邦最初にして唯一、現在もそうです。

翌年、昭和42年に、旧山中高女の跡地に「幼研施設」と「附幼」ができました。現在、その研究室、附幼はマンションになっているそうです。

当時は幼児教育が盛んになり始めていました。初代幼研施設長として教育学科教育哲学を出られた柴谷久雄先生が、そして助手には教育学科出身の丸尾謙氏が就任されました。時に昭和41年のことです。この41年は、まだ幼研の建物がないので、教育学部の校舎の中でうぶ声をあげたのです。この2名の定員はなく、教育と心理が定員を割いて創設しました。翌年の昭和

42年4月旧山中高女の跡地に建物が出来ました。昭和41年にまた三好先生に言われ、広島大学教育学部附属幼年研究施設に移りました。

私は昭和42年、幼研の教育学の助教授でした。柴谷先生、私、丸尾先生の三名でした。その1～2年後幼研に幼児心理学ができ、私はそこに移り、幼児教育学に助教授として森林さんに来てもらいました。そして井上勝さんを教育学部の助手から横滑りで呼んだわけです。

ここで幼研の教育学には、柴谷、森、丸尾、そして心理学は教授なし、祐宗助教授の時代となります。その後、幼児心理学の教授として東雲分校から林美樹雄先生を呼んだわけです。ここでようやく幼研の幼児教育学、幼児心理学二つとなったのです。私達（祐宗と森）は本部の修士・博士の両専攻の教授としての資格が与えられていましたので、広島大学大学院修士課程・博士課程、及び教育学専攻の教授、助教授として授業及び演習を担当することになりました。そこでは古浦一郎先生や山本多喜司先生、林美樹雄先生と私とが授業と演習を担当することができたのです。附幼の園長は、当初三好先生、そして柴谷先生、林先生、赤塚先生、名和先生、そして、私、森さんでした。その後すぐ騒然たる学生紛争が起きました。

幼児学専攻は元広島大学大学院実験心理学専攻教授萩野源一先生が付けられたのです。廊下をあちこち歩きながら、教室の人々に聞いておられたが、なかなか先生のアイデアに合わなかった。ついに、ご自分のアイデアで「幼児学専攻」の名で当時の文部省に提出されました。これが認められて「幼児学」となった次第です。この名称も、本邦唯一のものです。

(2) 設立当初の様子・附幼との関係

幼研と附幼とは一体でした。例えば、運動会では、北隣の千田公園でお手伝いをしました。当時の「附幼」の先生は、最初は安松先生、次に佐々木先生、仲渡先生が来られました。

(3) 幼研当初の研究と教育

幼児の数概念の発達的研究を主として私が行

いました。その結果を活字にしていたのですが、今はそれがどこにあるのかわかりません。

(4) 修士課程の創立について

修士課程のⅠ期Ⅱ期の学生は、嘉数朝子、井口均、中澤潤、平川忠敏、中澤小百合、石橋由美、松島恭子、清水容一、陳省仁（台湾国立政治大学からの留学生）、黒川久美、植田ひとみ、板井修一、石橋昌子、Kyoko Mueke、でした。

私達は、将来ドクターコースを立ち上げるためには、先ず、修士を出た人をしっかり研究させる必要があると思い、第Ⅰ期の人々に鋭意教育し、論文を書いてもらいました。

(5) 幼研の将来、幼研に期待すること

幼研の研究には次のことを期待します。

- 1 思いやりを育てる保育実践研究
- 2 やり抜く（遂げる）力を育てる保育実践研究
- 3 立ち直りを育てる保育実践研究

以上は、保育者がすべて自作の紙芝居等でおこなってください。

仲のよい子どもだけではなく、比較的仲のよくない子どもとも遊ばせてください。対人力、人間関係力が養われます。この頃は、成人の殺し合いを扱った番組がテレビで上映されていま

す。できるだけ見せないようにしてください。見る機会があっても、終いには罪人になることを教えてください。

私の知人でアメリカのミラー博士は、模倣・非模倣を学習することを動物実験で明らかにしています。私は彼の本「社会的学習と模倣」に関する本を翻訳しています。また、アメリカのスタンフォード大学のバンデューラ博士は、子どもが成人の攻撃的行動や態度を観察・学習・モデリングすることを、保育園児の実験的研究によって明らかにしています。

プロフィール

祐宗 省三（すけむね せいそう）

広島大学名誉教授(文学博士)。1929(昭和4)年、広島県生まれ。広島大学大学院(教育心理学)修了。米国オハイオ州立大学大学院博士課程(心理学)にフルブライト留学。広島女子短期大学を経て、1966(昭和41)年から広島大学教育学部附属幼年教育研究施設に勤務。1993(平成5)年3月定年退官。その間、広島大学附属幼稚園長、広島大学教育学部附属幼年教育研究施設長を兼任。2008(平成20)年日本心理学会国際賞功労賞授賞、2012(平成24)年瑞宝中綬章受章。